

青年と少女のマルチプル・オンライン — アイナ・アンダレイー

グラハムandエディ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「あのガンダムのプレイヤーに追いついてみたい、！」

勝利にしか興味のなかったプレイヤー、『フェン』がとあるプレイヤーと出会い成長していく、もう一人の主人公の話。

目次

第1話 「GN-Xとガンダム」 | 1

第1話 「GN-Xとガンダム」

宇宙、隕石群にて：

パシユン！パシユン！

動きに注意しなければならぬ隕石群の中で、1機のデステイニーベースのガンダムと、1機のオリジナル太陽炉搭載型GN-Xが戦闘している。

???? 「今日も勝利数を更新してやる！」

GN-XのプレイヤーはGNビームライフルを数発撃つた後にGNビームサーベルを取り出す。

青年 「、、っ」

接近戦に対応する為、ガンダムはGNロングブレードで対抗した。

ジリジリ：

???? 「武器を取り出す速度が速い、、うおっ！」

ガツンッ！

ガンダムはGN-Xを蹴りで突き放し、シールドをGN-Xめがけて投擲した。

???? 「くっ、」

シールドをギリギリ捉えたGN-XはGNシールドでなんとか防ぐ。
ビュウウウウウ!

すると立て続けにガンダムがアロンダイトを手に取り、GN-Xをめがけて突進する。

???? 「速すぎる、、！」
ザンツ、、!

ガンダムはスーパーモード、GNバーニア、光の翼の合せ技でGN-XをGNドライブごと貫いた。

???? 「なんて力だ、、」
ドオンツ!

ロビー…

GN-Xのプレイヤーがロビーに戻ると、1人の女が駆け寄ってきた。

???? 「お疲れ、負けてやんの」

ミア、幼馴染みで同じ学校に通っている。偶にからかってくるような奴だ。

????? 「うるせえ、、、。あくあ、勝率下がっちゃうな」

ミア 「このゲームはどんなゲームでも勝率90%なんてありえないんだから気にすることないって」

????? 「どんなフオローだ」

そんな掛け合いをしていると、偶然2人のプレイヤーの会話が耳に入ってきた。そのプレイヤーの外見はオレンジでよく目立つ。

俺らと同年だろうか。

少女 「お疲れ様♪久しぶりのガンブレの調子はどう？」

青年 「うくん、まだ鈍ってる」

聞き耳を立てていると、ミアが再び話しかけてきた。

ミア 「あの2人が気になるの？」

フェン 「あ、ああ。あのオレンジのコートの人、さっきのガンダムプレイヤーなのかなって」

ミア 「そうみたいだよ」

フェン 「知ってたのか？」

ミア 「うん。確か前にランキング表に載ってたから。それに、、、」

ミアはしばらく黙りだす。

フェン「それになんだよ？」

ミア「、、、あの人、2、3日ほど前血まみれで女の子に担がれながら帰ってきたの」
それを聞いたフェンは動揺をする。

フェン「は、はあ？どこで？」

ミア「私が気分転換にSAOにログインして、その街の中で。今は眼帯してるなんて思いもしなかったけど、、」

フェン「、、、」

ミアに説明された後、フェンはしばらくその青年から目が離せなかった。

数時間後…

フェンとミアはロビーから外へ出て、自分達のホーム前へと戻ってきた。

ミア「フェンはこれで落ちる？」

フェン「いや、少しショップを見てから落ちる」

ミア「そっか、じゃあまた明日学校で。またね」

フェン「ああ、また明日」

挨拶を交わし、ミアはログアウトした。それと同時にフェンはショップへと歩きだ

す。

フェン「さて、強化パーツ何か売って、、」

????? 「お、、っ」

フェンが曲がり角を曲がると、他のプレイヤーと衝突した。

フェン「うわつと、すつすいません！」

????? 「いや、大丈夫！」

フェン「つて貴方は、、」

オレンジのコートに左目の眼帯、間違いない、さっきのガンダムプレイヤーだ。

青年 「ん？あく、あのGN-Xの！」

フェン 「はい、先程は対戦ありがとうございました！」

青年 「敬語なんていらぬよ。俺にはね」

フェン 「そう、、か」

以外だ、無愛そうなイメージがあったけど凄く優しい。

青年 「あのGN-X凄いかっこ良かったよ！」

フェン「ありがとう。でも黒のGN-XⅢにモンテロー腕とアヴァランチエクシア背

を付けただけだ」

青年 「それでも素組みとは見違えていいよ、俺もGN-Xのカスタム好きだし」

フェン「そうなのか」

フェンが気が合いそうと思っていると、1人の少女の声が聞こえてきた。

少女「グラハムく行くよ〜！」

あの様子だと、フェンがいることに気づいてない。てかこの人の名前グラハムって言うんだ。

グラハム「俺はそろそろ行くよ。またな」

フェン「ああ、また戦う時に」

グラハム「楽しみにしてるよ」

そう言ってグラハムは道路の向こう側にいる1人の少女の元へ向かった。

フェン「よし、やってやる、」

フェンはシヨップへ向かいながら決意した。

フェン「グラハム、あのガンダムのプレイヤーに追いついてみたい、！」

今までにない闘争心を抱き、フェンは高みへと目指す。